

環境省、経済産業省同時

平成20年2月22日（金）
愛知県環境部環境活動推進課
環境リスク対策グループ
担当 高林、木佐
内線 3025、3026
ダイヤル 052-954-6212

愛知県における平成18年度化学物質排出量等の 集計結果について

○ 県は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（化学物質排出把握管理促進法）や「県民の生活環境の保全等に関する条例」^(※1)に基づき、事業者から届出があった化学物質の、平成18年度における排出量^(※2)、移動量^(※3)、取扱量^(※4)等について集計し、その結果をとりまとめました。

(1) 届出排出量・移動量

- ・届出事業所数 2, 517 事業所から届出。
- ・届出排出量 トルエンなど合計18千トンで前年度と比べ2千トン減少。
- ・届出移動量 合計16千トンで前年度とほぼ同量。

(2) 届出外排出量^(※5)

- ・届出外排出量 17千トン。
- ・届出排出量と届出外排出量の合計 34千トン。

(3) 届出取扱量

- ・届出事業所数 2, 197 事業所から届出。
- ・届出取扱量 キシレンなど合計4, 006千トンで前年度と比べ122千トン増加。

○ 平成18年度の特徴としては、化学物質の届出取扱量（事業所で製造又は使用した量）は増加しましたが、環境への届出排出量は3年連続で減少しました。

(※1) 名古屋市の「市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例」による分を含む。

(※2) 排出量とは、事業所等から大気や公共用水域などの環境中へ排出した量

(※3) 移動量とは、廃棄物として事業所外へ移動させた量及び下水道へ放出した量

(※4) 取扱量とは、事業所で製造又は使用した量

(※5) 届出対象外事業所や家庭、自動車等の移動体からの排出量（環境省、経済産業省による推計値）

(※6) 集計結果の詳細は愛知県（環境部）のウェブページに掲載します。

1 届出排出量及び移動量の集計結果の概要（化学物質排出把握管理促進法）

（1）届出事業所数

排出量及び移動量について、愛知県全体で2, 517事業所から届出がありました。

表1 業種別の届出事業所数

業種名	排出量・移動量		
	18年度	17年度	16年度
①燃料小売業	958	946	918
②自動車整備業	219	251	314
③輸送用機械器具製造業	213	221	223
④金属製品製造業	162	172	173
⑤化学工業	125	128	128
全業種	2,517	2,564	2,595

（2）届出物質種類数

届出対象となっている354種類の化学物質のうち、168種類について届出がありました。

（3）届出排出量・移動量

届出事業所の排出量の合計は18千トン、移動量の合計は16千トンでした。前年度と比較すると、排出量は2千トン減少、移動量はほぼ同量でした。

表2 届出排出量・移動量の経年変化（単位：トン/年）

届出の種類	18年度（前年度比較）	17年度	16年度	15年度
排出量	17,795 (△2,489)	20,284	22,235	22,707
移動量	15,813 (△652)	16,465	15,146	15,674

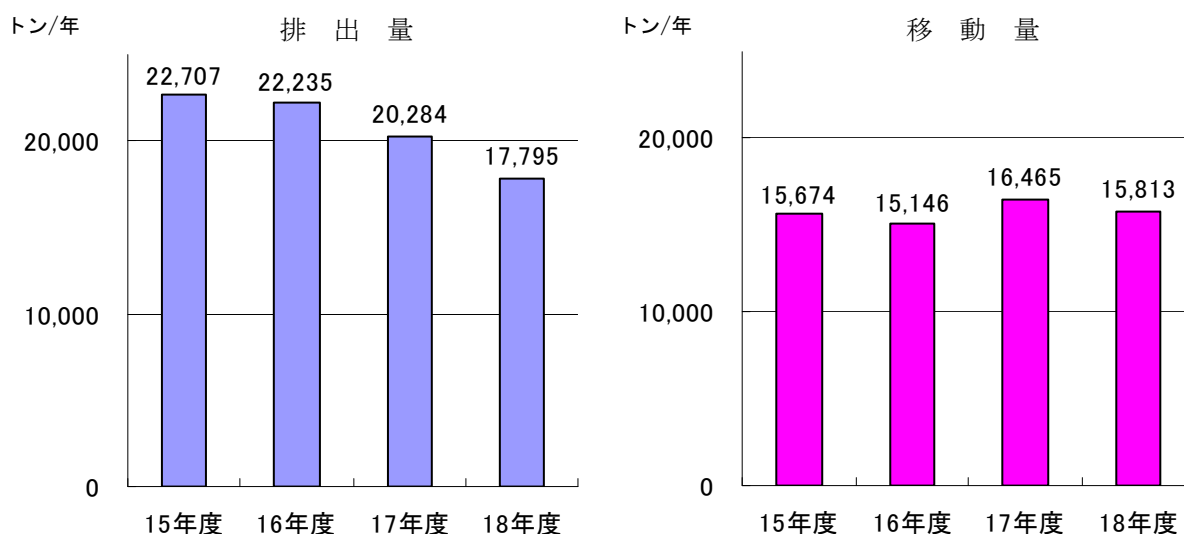


図1 届出排出量・移動量の経年変化

(4) 物質別届出排出量・移動量

物質別では、塗装用の溶剤などに使用されているトルエンが前年度と同様に排出量、移動量とも最も多くなっています。

表3 物質別届出排出量・移動量の経年変化 (単位：ト/年)

物質名		18年度	17年度	16年度	15年度
排出量	①トルエン	7,630	9,358	9,898	9,698
	②キシレン	5,232	5,494	6,343	6,728
	③エチルベンゼン	1,773	1,879	1,854	1,731
	④塩化メチレン	1,007	1,172	1,581	1,728
	⑤1,3,5-トリメチルベンゼン	329	341	273	254
移動量	①トルエン	3,981	4,461	3,444	3,400
	②クロム及び三価クロム化合物	1,812	1,397	1,524	1,566
	③マンガン及びその化合物	1,728	1,462	1,564	1,621
	④キシレン	1,152	1,286	1,002	987
	⑤鉛及びその化合物	1,037	938	1,094	1,233

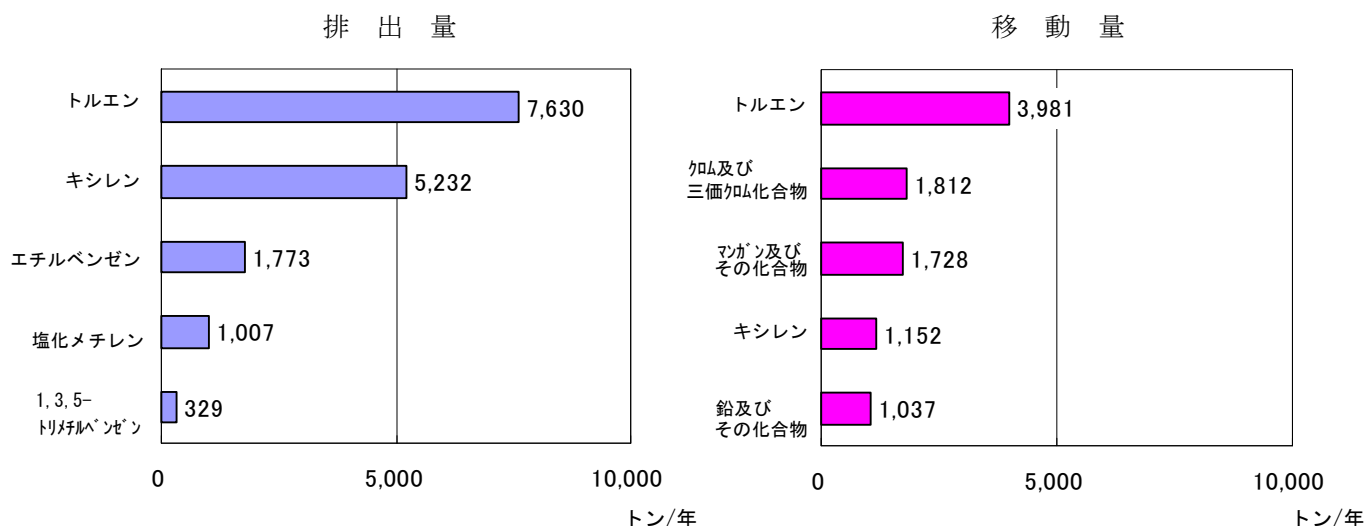


図2 届出排出量・移動量上位5物質とその量 (平成18年度)

(5) 業種別届出排出量

業種別では輸送用機械器具製造業からの排出量が前年度と同様に最も多くなっています。

表4 業種別届出排出量の経年変化 (単位：ト/年)

業種名		18年度	17年度	16年度	15年度
排出量	①輸送用機械器具製造業	6,872	7,706	8,917	9,614
	②プラスチック製品製造業	2,549	2,350	2,666	2,527
	③金属製品製造業	1,794	1,941	1,951	1,997
	④窯業・土石製品製造業	1,266	2,503	2,702	2,082
	⑤その他の製造業	948	834	704	555

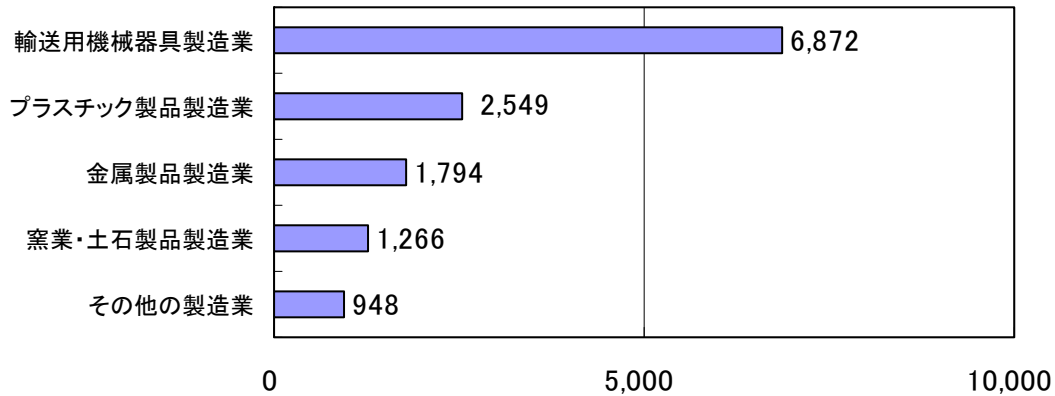


図3 届出排出量上位5業種とその量（平成18年度）

(6) 環境への排出先

大気や水域などの環境への排出先は、前年度と同様に大気への排出量がほとんどで、届出排出量全体の97.2%でした。

表5 排出先別届出排出量の経年変化 (単位：トン/年)

排出先	18年度 (割合：%)	17年度	16年度	15年度
大気	17,304 (97.2)	19,834	21,670	22,140
公共用水域	487 (2.7)	450	525	540
土壌	0.006 (0.0)	0.001	0.001	0.001
埋立	5 (0.0)	0.254	40	26
合計	17,795	20,284	22,235	22,707

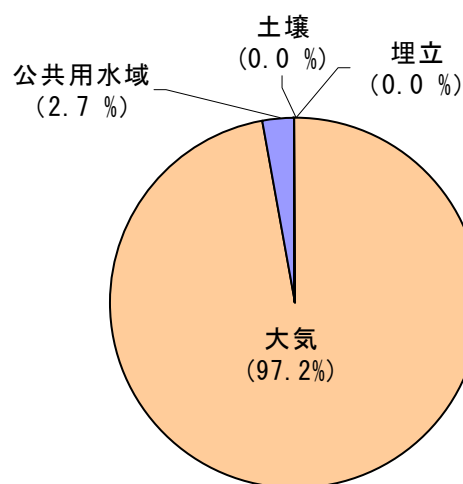


図4 排出先別届出排出量の内訳（平成18年度）

2 届出外排出量の集計結果の概要（化学物質排出把握管理促進法）

環境省及び経済産業省が推計を行った愛知県の届出外排出量は17千トンでした。

また、愛知県における届出排出量と届出外排出量を合わせた、化学物質の環境への排出量は34千トンでした。

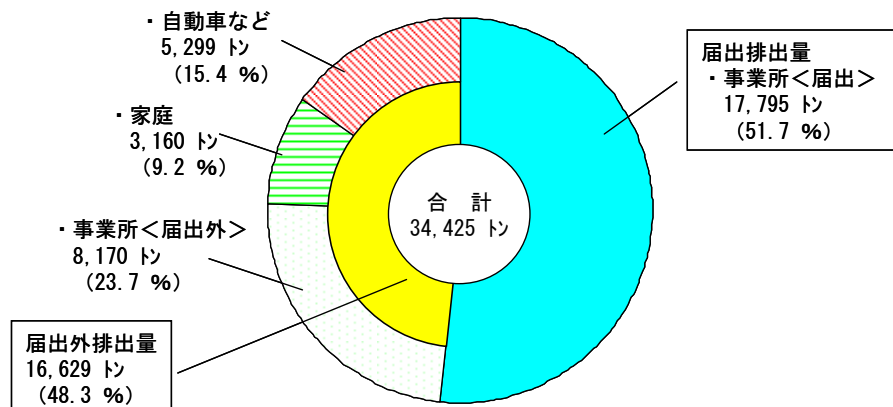


図5 発生源別排出量の内訳（平成18年度、届出排出量+届出外排出量）

3 届出取扱量の集計結果の概要（県民の生活環境の保全等に関する条例）

(1) 届出事業所数

取扱量については、愛知県全体で2,197事業所から届出がありました。

表6 業種別の届出事業所数

業種名	取扱量		
	18年度	17年度	16年度
①燃料小売業	944	930	906
②自動車整備業	219	248	314
③輸送用機械器具製造業	205	206	218
④金属製品製造業	148	162	170
⑤化学工業	119	123	126
全業種	2,197	2,232	2,307

(※) 条例の届出対象事業所は、化学物質排出把握管理促進法とは一部異なっており、下水道終末処理施設や廃棄物処理施設を有する事業所は含まれていない。

(2) 届出物質種類数

届出対象となっている354種類の化学物質（化学物質排出把握管理促進法の届出対象と同じ）のうち、158種類について届出がありました。

(3) 届出取扱量

届出事業所の取扱量の合計は4,006千トンでした。前年度と比較すると122千トン増加しました。

表7 届出取扱量の経年変化（単位：トン/年）

届出の種類	18年度（前年度比較）	17年度	16年度
取扱量	4,005,697 (+121,871)	3,883,826	3,648,457

(4) 物質別届出取扱量

物質別では、合成原料などに使用されているキシレンが、前年度と同様に最も多くなっています。

表8 物質別届出取扱量の経年変化 (単位：トン/年)

物質名		18年度	17年度	16年度
取扱量	①キシレン	973,166	965,587	847,071
	②トルエン	771,793	766,753	755,466
	③テレフタル酸	352,617	355,781	255,431
	④クロム及び三価クロム化合物	221,476	213,009	213,844
	⑤ε-カプロラクタム	209,902	203,096	192,723

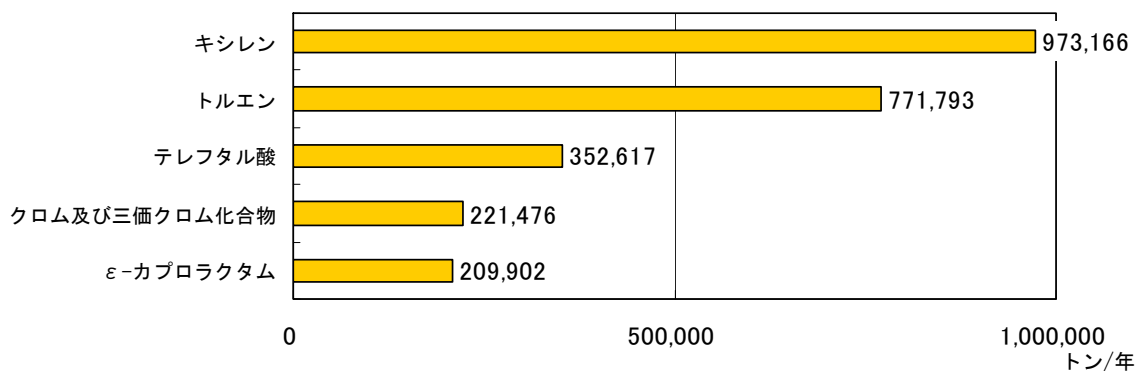


図6 届出取扱量上位5物質とその量 (平成18年度)

(5) 業種別届出取扱量

業種別では、前年度と同様に化学工業の取扱量が最も多くなっています。

表9 業種別届出取扱量の経年変化 (単位：トン/年)

業種名		18年度	17年度	16年度
取扱量	①化学工業	1,496,027	1,489,536	1,356,957
	②石油製品・石炭製品製造業	1,170,779	1,144,533	1,070,061
	③鉄鋼業	440,117	416,060	399,327
	④燃料小売業	355,214	344,795	299,514
	⑤倉庫業	230,997	175,032	178,183

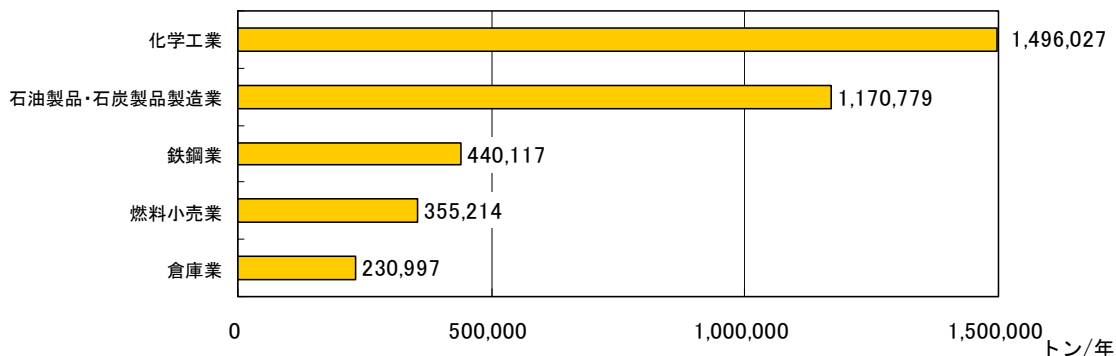


図7 届出取扱量上位5業種とその量 (平成18年度)